

[研究ノート]

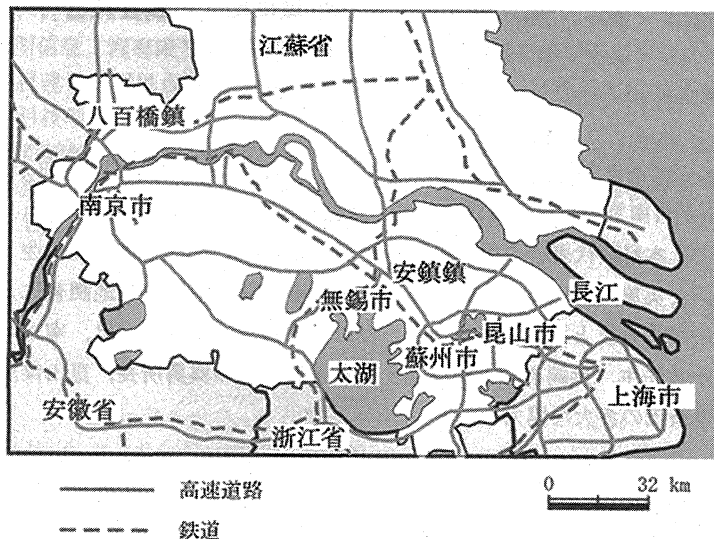
中国昆山市張浦鎮張浦村の聴取調査ノート

黒 柳 晴 夫

筆者は、平成 20 年度から本学部の季増民教授を研究代表とする科学研究費の研究プロジェクトに加えていただき、中国の長江下流域の東部沿海開発地域で、大規模な工業団地や住宅団地の開発にともなう農村社会の変動について調査する機会を持った。上海市を一大中心地とする東部沿海地域は、開放型経済への転換を早くから成功させ、目覚ましい経済発展をし続けている中国でも代表的な地域である。本研究プロジェクトのなかで、筆者は、上海市の西側に隣接する昆山市を取り上げ（図 1 参照）、市内の激変する農村社会の調査に着手している。

昆山市は、1980 年代からの開発開放政策の推進によって、産業構成が農業中心から第二・三次産業中心の工業都市へと発展をしてきた。市内には経済技術開発区なども設けられ、企業誘致も積極的に進められてきた結果、日系企業などの外資系を含む多数の企業が進出するようになり、市内の労働力需要が急激に増大してきた。そのため内陸地方からの労働力の流入が顕著となり、2005 年には外来人口のニューカマーが、在住戸籍人口を上回るようになった。市の面積は 927.7 km² で、ここに 2008 年現在、戸籍人口が 229,495 世帯の 690,435 人、外来人口のニューカマーが 954,162

図 1 昆山市の位置



資料：土居晴洋作成

表1 行政区別面積・人口・戸数・1戸平均員数・人口密度（2008年）

地 区	面 積		戸 数		戸 籍 人 口				外来暫住人口		総 居 住 人 口		
	km ²	(%)	(戸)	(%)	(人)	(%)	一戸平均員数	人口密度	(人)	(%)	(人)	(%)	人口密度
昆山経済技術開発区	92.67	9.99	38,740	16.88	134,664	19.50	3.45	1419.42	247,219	25.91	381,883	23.22	4120.89
花橋経済開発区	50.11	5.40	9,326	4.06	36,617	5.30	3.97	738.24	52,765	5.53	89,382	5.43	1783.72
巴城鎮	157.00	16.92	19,857	8.65	60,491	8.76	3.07	386.65	35,047	3.67	95,538	5.81	608.52
周市鎮	81.56	8.79	15,751	6.86	47,523	6.88	3.04	554.49	77,148	8.09	124,671	7.58	1528.58
陸家鎮	49.16	5.30	11,724	5.11	29,943	4.34	2.54	606.24	49,233	5.16	79,176	4.81	1610.58
淀山湖鎮	63.11	6.80	8,544	3.72	25,246	3.66	2.95	400.36	32,122	3.37	57,368	3.49	909.02
張浦鎮	116.27	12.53	21,709	9.46	62,862	9.10	2.89	533.16	73,598	7.71	136,460	8.30	1173.65
周庄鎮	38.96	4.20	8,729	3.80	22,062	3.20	2.52	566.45	6,832	0.72	28,894	1.76	741.63
玉山鎮	116.45	12.55	61,286	26.70	178,847	25.90	2.92	1495.64	290,352	30.43	469,199	28.53	4029.19
千灯鎮	71.70	7.73	17,128	7.46	48,945	7.09	2.84	681.17	66,770	7.00	115,715	7.04	1613.88
錦溪鎮	90.69	9.78	16,701	7.28	43,235	6.26	2.56	476.90	23,076	2.42	66,311	4.03	731.18
昆山市合計	927.68	100	229,495	100	690,435	100	3.00	732.85	954,162	100	1,644,597	100	1772.81

資料：昆山統計年鑑2009 昆山市統計局

人、合計1,644,597人の人びとが住み、人口密度は1km²当たり1,772.8人に達している（表1参照）。また同年の就業人口は706,342人を数え、そのうち第一次産業就業人口は僅か4.0%で、圧倒的に多いのが第二次産業の63.4%、ついで第三次産業の32.6%となっている。

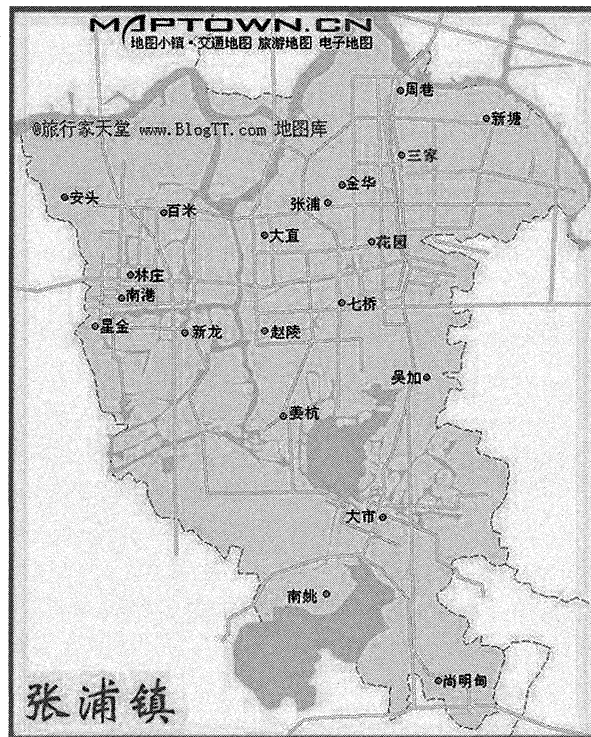
平成21年度の現地調査では、昆山市内にある表1に示した11行政地区のうちで、比較的農村戸数が多いけれども、2000年代になって工業団地と住宅団地の開発が進み、農村的景観が急激に失われてきている地区の一つである張浦鎮を調査対象地とした（図2参照）。その張浦鎮の中心部に位置して、これまで鎮の中心となってきたのが張浦村である（図3参照）。張浦村は、2006年に漁業者の住宅団地や新住民の住宅団地を併合して張浦社区となり、現在の組、世帯、人口の構成を示すと表2のようである。

張浦村は、周りの多くの村が農地のみならず集落の住宅地も取り壊して工業団地や住宅団地へと再開発を進めてきたなかで、集落の再開発に乗り遅れたところである。したがって、村の住民の住まいは従来の農業に従事していた当時の密集した住宅地の景観を留めているところである。しかし、周囲の農地は開発が進み、工業団地や住宅団

図2 昆山市内行政区分図



図3 張浦鎮内行政区分図

表2 張浦村の人口・世帯数・村民代表投票者数
(人、戸)

	合計人数	男	女	世帯数	村民代表投票者
張浦第1組	203	96	107	91	4
張浦第2組	137	62	75	53	4
張浦第3組	89	46	43	34	4
張浦第4組	249	116	133	83	5
張浦第5組	142	61	81	50	4
張浦第6組	119	54	65	56	4
張浦第7組	132	59	73	45	4
張浦第8組	107	49	58	38	4
張浦小計	1,178	543	635	450	33
新村 1組	101	53	48	34	
新村 2組	153	80	73	44	
新村 3組	244	118	126	74	
新村小計	498	251	247	152	12
居民委員会	2,108	1,154	954	1,044	32
合計	3,784	1,948	1,836	1,646	77

資料：張浦社区政府

(2009年4月24日現在)

地に変貌し、農家は現在農地を持っていない。したがって、農家の生活はこれらの団地の地代とニューカマーの農民工に借家や借間をさせて得た家賃によって支えられているのである。

以下は、この張浦村で2009年8月13～16日に行ったインタビュー調査の記録である。これは、自分の研究資料として利用する目的の他に、共同研究者の間で聴取内容を共有する目的も果たすためにまとめたものであるため、時間の経過や調査の経緯が分かるように記録してあるがそのまま掲載することを断っておく。

1. 8月13日(木)の聴取調査

今日から始まる張浦陳の調査の通訳をお願いしていた張明明君（上海市青浦区出身の福山大学経済学部3年留学生）が、8時過ぎにホテルに直接来てくれた。ロビーで初めての面会をしたが、日本語が上手で誠実そうなので、農村社会のこともよく知っているようで、われわれの期待に応えてくれそうな人物に安堵する。挨拶をした後チェックインをしてもらうとともに、早速今日から16日までの仕事の段取りを伝える。

龚さんが8時20分に奥さんの運転する自動車ですてホテルに到着。打ち合わせをした後、9時45分に Park Hotel を出発。同行者は、龚建新（昆山市都市計画設計院副院長で中国側研究協力者）、土居晴洋（大分大学教育福祉学部教授で共同研究者）、張明明（上海市青浦区出身の福山大学経済学部留学生で、通訳を依頼）、黒柳晴夫の4名。

訪問先の張浦村村民委員会に向かう途中で、われわれの受け入れ窓口になってくれる面会予定者の張浦村共産党副書記趙彬彬（28歳）から龚氏の携帯に連絡があり、子どもの急病のため会えないとの連絡内容であった。そのため、10時10分に張浦村内の西側寄りにある村民委員会前に到着したが、村民委員会を訪問することが出来ず、同委

員会前で自動車を降り、そのまま徒歩で運河の橋を東に向かって渡り、住宅が密集して建ち並ぶ村内の一角（第4組に属す）に入る。

（1）王明林さんの聴取調査①

（10：30～11：50）

橋から100メートル足らずの左側に、軒先にクーラーを置いて飲み物とタバコを売っている小さな小売店があり、龚さんがジュースを求めた。店先に出てきて応対してくれたおじいさん（王明林70歳）に村の話をしてくれないかお願いしたところ、快諾していただいた。そこで、店の中に入って聴取した（10：30～11：50）。店は麻雀屋を兼ね、麻雀卓が3つ置かれていた。

王名林さん（70歳、男性、元張浦村共産党書記）

王明林さんは、現在70歳で、1980～84年の4年間張浦村共産党書記の職にあった。村は8組に分けられており、王さん宅は第4組に属している。王さんは18歳ぐらいから農業に従事してきた。請負農地は、1人当たり1畝（ムー）（＝666.7m²）で7人家族（本人、息子4人、娘とその夫の2人）だったため7畝あった。農地は、10年ぐらい前から徐々に他の用地に転換され、7年前にすべて無くなった。鎮政府が、補償費を払って農民から土地を収容し、開発業者に売る。現在、王さんは政府から年金を月額470元給付されている。人民公社の時には、党書記の給与は政府から公社を通して支払われ、給与額は200元以下で村長と一緒だった。

王さん宅は、1991年二階建てに改築し、現在18部屋あり、7～8年前からニューカマーに部屋貸しをしている。4部屋を自宅に使い、13部屋をニューカマーに貸し、1部屋を共同利用の部屋にしている。自宅は4部屋で400m²、ここに自分、息子、娘、孫（息子、娘どちらの子か？）の4人が住み、息子、娘、孫は夜は市内の自分の家に自動車に戻る。娘達は、昼間自分の世話と麻雀屋の仕事に来る。13部屋を借りているニューカマー

は、8世帯20人で、うち3部屋は風呂屋になっている。家賃は、1部屋あたり月額100～200円で、光熱費は実費別払いである。息子は市内の外資系の企業に勤務している。借家人との関係は悪くはない。王さんは野菜が余ると借家人に分けている。

村では、地元出身でそのまま地元に住んでいるのは老人が多く、戸籍をもっており、ほとんどの人が部屋貸しをしている。また、村を離れて外に住んでいる人も、空いた自宅をニューカマーに貸している。後者の例は、第4組と第8組に多くみられる。ニューカマーのほとんどは工場労働者である。

人民公社の時代、張浦村の中でも第4組は豊だった。1970年に豚の内蔵を加工して食糧の他に止血剤（千素納）を作る生物化学工場を造り、1994年まで操業した。止血剤の価格は500gで3,500円だった。操業1年目は30,000円、2年目は75,000円、3年目は100,000円のそれぞれ利益をだした。

農業関係

農作物は米と麦の2毛作が中心で、米は、6月15日から17日頃田植えをし、10月20日頃に収穫する。収量は1ムーあたり550kg。麦は、10月初旬に種まきし、6月に収穫する。収量は1ムーあたり250kg。収穫した米麦は、鎮にある機関、食糧管理処に売る。肥料や農薬は公商（公請社？）で購入する。作付品種は、政府が指導し、村民が相談して決めるが、各自の自由選択で行われるようになっている。

鎮および組ごとに農業指導の技術者がいる（農業技術站）。農民組織の機能は、①信用社、②技術指導、③購入・販売であり、鎮から農民組織には有線放送で指導がある。

現在張浦村の人で農地をもっている人はいない。漁業をしている人は少ないが、かれらは他の村の土地を借りている。

鎮の下にある事業所

江蘇省に登録され、従業員数7人以下の場合は個人企業、8人以上の場合は私企業で、社長と社員を置く場合は法人企業となる。したがって、個人企業と資本社の境界は構成員数が7人を上回るかである。

行政組織

張浦鎮全体の人口は、地元戸籍所有者が4万人、ニューカマーが6万人である。張浦村の人口構成は、地元の人が1/3、ニューカマーが2/3である。張浦村は3年前から張浦社区となっている。

上から鎮一村一小組となっている。3年前から鎮の周りの村が社区になった。村の村民委員会は、選挙で選ばれる村長と、村長の任命によって決められる副村長、会計、女性、民兵、技術者（鎮の指導を受ける）の役職者で構成される。役職や委員数は決まっており、鎮から給料が支払われている。村長も各委員も任期は4年。村長の給料は、高い方で6～7万円、低い方で4～5万円である。小組の組長は任期が無く、現在就任者に女性が多い。それは、村に残っている人は、老人、女性、就学期までの子どもが多くなっているから。組長には、会合があるときに村から20元の手当が支払われる。

婦人組織

婦人連合会で、鎮の下組織。婦人組織の役割は、一人っ子政策の推進。夫も妻もそれぞれ一人っ子の場合、夫婦は二人まで子どもを持つことが出来る。

青年組織

共産主義青年同盟があるが、現在は名前のみ。かつては村民委員会に同盟の書記がいたが、現在はない。

運河の市河両岸の商店街の職業紹介業者店舗で

王さんとのインタビュー後、村内の中心を南北に流れる幅10mぐらいの運河、市河の両岸の商店街を散策。西岸の中央の現在映画館の辺りに17年前まで旧張浦鎮役所があった。その対岸辺

りにあった職業紹介の店で聴いた斡旋料は1人40～50元。景気がよかったときは、1日に10数名紹介した。

（2）金華村での聴取調査

（14：20～16：20）

龚さんが、当初張浦村とともに調査対象村のもう一つの村として候補にあげてくれた金華村に行く。この村は、張浦村の北西に隣接する村で、張浦村の党副書記、趙彬彬さんの出身の村である。

王小興さん（女性、48歳）

農家の女性で、夫（53歳）が三輪タクシーの営業をしているが、営業免許は持っていない。三輪タクシーは自分で購入したもので、ガソリンエンジンの三輪タクシーを所有し、価格は1台2,200元であった。電気自動車の三輪タクシーの価格は6,500元である。農地は、一人当たり120m²の配分で、夫婦で240m²である。王さん宅は、金華村の北村第13組に属し、同組は27戸で構成されている（屋敷は30戸分）。自宅は10数年前に建築し、現在ニューカマーに部屋貸しをしている。部屋の貸し賃料は、1部屋月額100元。金融危機のため、ニューカマーが昨年末（今年初めの旧正月）に帰省して以来戻ってこない。したがって、集落のほとんどの貸部屋が空いている。普通貸し手の農家の家主が2階に住み、1階を貸部屋にしている。

開発は鎮の周囲から進められてきたので、中心部では貸部屋が不足し、鎮の周りで貸部屋の供給が増加してきた。金融危機の影響で借り手が減っている。

年金額は、40～60歳代で年額1,000元。

趙彬彬さん（28歳、張浦村共産党副書記）

張浦村北隣の金華村の南村に住んでいる。江蘇省東南大学卒業後張浦鎮の職員（大学生村官と呼ばれる）として4年勤務した後、副書記に就任して1年目。張浦鎮政府の役所には82名が勤務し、その役所外の勤務者を入れると職員数は数百名に

なる。鎮のレベルで政策を計画するのは難しい。

村の党書記の役割は、重要な事柄の決定で、具体的には経済発展とその財政計画、それと人事である。その他のことは、主として村長がおこなう。村長は、常に書記に打診しながら村政業務をおこなう。村には、8人の党員の委員からなる党の村支部が置かれている。書記の選出は、8人の中から上位機関の指示で任命するのか、村内共産黨員による選挙か等については、後述を参照。

張浦鎮の課題

鎮や村政府の仕事は政策の実行が中心。現在の鎮政府の政策課題は、企業誘致（汚染企業は入れない）、土地の減少化への対策である。すなわち、大きなアウトプットを期待できる企業、非汚染の企業を誘致する。国の経済施策は、非汚染の集約型企業誘致を推進し、3年間税金を免除する。

張浦村（社区）の課題

どの村も経済発展が最大の目標である。それは上位機関から、幹部が経済業績、GDP成績の結果で評価されるからである。村のレベルの住民の収入は、農業生産の上昇は期待できず、もっぱら部屋貸しと農地貸しの賃料である。鎮は、開発のためにもっぱら農民から土地を買い取っている。村民委員会の課題は、村の人びとの生活を安定させることである。

2. 8月14日（金）の聴取調査

昨日のインタビューが終わったところで、張浦村党副書記趙彬彬さんに張浦村のことについて話をしてくれるインフォーマントを紹介してくれるようにお願いしたところ、今朝の時間と場所の指示があった。そこで、黒柳晴夫と通訳の張明明が、指示のあった張浦村の東隣、現在張浦鎮役所がある花園村内の喫茶店、来雅珈琲店に約束の9時30分前に行って、インフォーマントが来るのを待った。副書記趙彬彬さんが5分遅れでインフォーマ

ントともに店に現れた。インフォーマントの男性は、趙彬彬の伯父、すなわち母の長兄の孟引根(61歳)さんであった。孟引根さんは、今回の張浦村でおこなった調査票調査を、副書記趙彬彬さんに頼まれて一手に引き受けて調査票の記入をした人であることも分かった。

龚さんの話によると、龚さんが今回伝を頼って張浦村の副書記趙彬彬さんに渡りをつけ、張浦村を調査村として選定していただいたが、趙彬彬さんは張浦村が開発が遅れて汚い村だとの理由で、調査されることを快諾しなかったとのことである。したがって、調査票調査も好ましくないとの態度だったそうである。そんなことから、調査票調査も、信頼できる伯父に頼んでこっそり行ったようである。副書記がインフォーマントとの面会を村外で行うように設定したのも、そんな事情があったからだろう。なお、実際に孟引根さんによって記入された調査票は全部で69票で、龚さんから黒柳がすべて受け取っている。

孟引根さんの聴取調査①

(9:45～12:00)

副書記趙彬彬さんは仕事のためにすぐ退席したため、そのあと孟引根さんに聞き取り調査を行った(9:45～12:00)。

孟引根さんは現在の第6組のところで生まれ育った。しかし、人民公社時代の1962年までは南組と北組の2組だけに分かれていた。当時の世帯数は、全体で約255世帯であった。ちなみに現在の世帯数は1,646世帯に増加している。人民公社時代は、人口が増えてくると耕地面積と労働力のバランスが不均衡になるために、組替えや新たな組の創設が行われてきた。孟引根さんは、1962年から第5組、そして1968年から現在の第8組へ所属が代わった。1982年に人民公社から生産請負制度に代わった。張浦村の面積は2km²である。

孟引根さんは長男で、きょうだいは弟が2人で

3番目と5番目、妹が3人で2番目と4番目と6番目である。5番目の弟と6番目の妹は双子である。副書記趙彬彬さんの母親は4番目の妹である。弟の一人は村内に居住。妹の二人は金華村の北村に嫁いでいる。自分の子どもは息子と娘の二人で、息子は市内に、娘は村内に住んでいる。お正月や祝日にきょうだい、妻のきょうだいの範囲で付き合う。結婚式と葬式の時には、親戚の全部が来る。出産の祝いは親戚に案内する。

孟さんの曾祖父の父親は清朝時代の官吏だった。その事実は『張浦鎮誌』に出ている。自分は5代目で、その順は、孟招曾——孟春堂——孟朝治——孟福生——孟引根となっており、孟招曾是清朝時代の官吏だったことが『張浦鎮誌』に載っている。

村内の親戚や同族(宗族?)について、どの組でも兄弟が住んでいる例が多い。多い姓は陳と盛で、特に第4組では盛が多い。昔の張浦村は孟姓と張姓のみだった。

元漁業従事者

元漁業で暮らしていた世帯は、現在70～80%が家を持っており、新村の第1組の人が中心(前掲表2参照)。新村の人は、元漁業をやっていた人たちで土地が無く、多くの人は船上生活者だった。現在も、河川や湖の使用権(漁業権?)を持つ。

張浦鎮政府役所等の見学(13:00～14:00)

昼食後、通訳の張明明と花園村内にある張浦鎮政府役所、張浦税務所などを見学。前者では関係資料について一部訪ねたが、貰うことはできなかった。それらの役所がある一帯の商店街も見学。

王明林さん宅と孟引根さん宅を再訪

途中で手みやげのスイカを買い、それを持って14時30分に王明林さん宅を訪ねた。事前に予約をしていたにもかかわらず、用事ができたとのこととで不在だった。そこで、急遽孟引根さん宅を探し、やはりスイカを持って訪問(15時)。本人は

在宅していたが、用事があるって時間がないようなので、明日の面接予約をとって辞す。

3. 8月15日(土)の聴取調査

8時30分にホテルを出発、9時30分より王明林さんにインタビュー。途中、タクシーの運転手の話では、昆山市内のマンション価格は1m²当たり5,000～6,000元、最高で1万元だそうである。

(1) 王明林さんの聴取調査②

(9:00～11:30)

張浦村リーダーの党書記陳華さん(37歳)

現在、張浦村の党書記は陳華(37歳)で、2年前の2007年に鎮政府から任命されて就任。任期は4年で、再任はない。人を代えなければいけない。任期後は上の鎮政府の職員に移動する可能性もある。

陳華は、張浦村出身で、中学卒業後独学で短大卒業資格試験を受け、同資格を取得した。父親は、かつて農村が無医村のために鎮から派遣されて医者の資格を取った赤脚医者である。

人民公社制から請負制へ移行後の成功者夏家良さん(59歳)

夏家良(59歳)は、1990年まで鎮が経営していた印刷工場を買い取り、それを経営して、現在の工場に拡大させた。鎮政府から1kmの所にある本社の他に、花園村東北に隣接する垌坵村と蘇州に工場がある。総資産15億元といわれる。かれは、鎮から工場を買う前は農民で、副業で木工家具のイスをつくっていた。頭がよく、コネもあった。鎮がかれに会社を売却したのは、鎮の会社が潰れそうになっていたの、かれに譲れば会社を立て直してくれると判断し、またそうなれば鎮の損失も減らすことができると考えたからである。夏家良が経営するようになってから会社の業績が

上がり、利益の数パーセントを福祉事業に寄付するようになり、政府も税金の免除をした。職員に障害者、しかも他省の障害者を雇用し、福祉工場になった。福祉工場は、従業員の10(または20?)%以上の障害者を雇用しなければならないとの規程がある。本社の従業員数は700人ぐらい。

もう一人、夏と同じぐらいの成功者がいる。

老協会

村の中で信頼を得ているのは老人で、よく老人が相談者になる。老人の参加する老協会は、60歳以上の老人を会員としている。約600人が会員となっている。1986年に発足し、主な役割は、いろいろなイベント、リレーション行事、たとえば麻雀大会、将棋大会などを開くこと。

人民公社の時代は、よく働いても分配が同じで不満が多くストレスがたまった。当時は、仕事量は人それぞれだけれども分配が同じであるため、家の中でもケンカが絶えなかった。

会長は盛冬生(75歳)で、すでに会長を10年続けている。張浦社区老協会の役員は、会長盛冬生と委員4人の5名で構成される。老協会の集会所は、旧映画館近くにある村民委員会の所有施設で、毎日老人が、午前中は各自持ち寄ったコップで茶を飲みながら雑談を楽しみ、午後はトランプ、麻雀、将棋などを楽しむ。参加者は男性が多い。会費は取らない。老協会が行事の活動で支払った領収書を村の政府に持って行って補助して貰う。年間の主な行事は、8月15日の中秋節と正月(春節)に村ごとに婦人会と共同で劇(昆劇)、ダンス(踊り)、龍舞を行う。村ごとの他に、鎮でのコンペにも参加する。2008年の張浦鎮のコンペでは、張浦村の踊りが第2位で、女性を中心に1ヵ月練習して参加した。

問題がある時

各組の組長よりも、直接村幹部に相談する。

婦人連合会組織および青年組織・子ども組織

婦人主任(会長)は、村民委員会の委員を兼ねている。現在各組の組長は全員女性が選ばれている。

るので、各組長が婦人連合会のことも担当している。毎月25日に村の組長会が開かれ、そこで婦人連合会の話もする。中秋節と正月（春節）の行事には老協会と共同で参加している。

青年組織および子ども組織はない。むしろ学校がその役割も担っている。

村行政と共産党員

村民委員会委員は毎日勤務する。問題があるときに、村民委員、共産党員、組長が集まる会議が開かれる。張浦村の現在の共産党員は90数名。党員になる条件は、思想がいい、仕事の業績がいい、信頼される人間、そして推薦されること。入党申請書を提出すると、1年間の考察があり、さらにその後1年間の予備期間がある（この間は予備党員で、選挙権および被選挙権はない）。その後で、全党員の50%以上の承認を得て正式の党員となる。

（2）孟引根さんの聴取調査②

（12：30～16：20）

村民委員会と共産党村支部

村民委員会は、村長1名、副村長2名を含めて7名で構成されている。また、共産党村支部の役員は、書記長1名、副書記長2名を含めて5名で構成されている。現在、両方の役職を兼職する者が4名いる。

陳華（36歳）

村長（村主任と呼ばれる）、村共産党書記、短大卒

潘雪珍（46歳 女性）

副村長、村共産党副書記、太子鎮の太子中学卒

江風（45歳 女性）

副村長 兼 会計、村共産党委員、張浦高校卒業
唐江霞（35歳 女性）

婦女主任、張浦中学卒

陸素根（41歳）

民兵營長、党村支部委員、張浦高卒

陸素林（59歳）

特別な役職名なし、張浦中学卒

趙彬彬（28歳）

村共産党副書記、江蘇省東南大学卒

張浦村の共産党支部の役職者（書記以下全部で5名）は、党の鎮支部から関係者が村に来て考察、聴取して6名以上の候補者を決め、その候補者の中から党員の選挙によって決める。党員の投票で、投票用紙に書かれた候補者全員の名前のうち5名に印を付け、全投票者の50%以上の支持を得た候補者の中から鎮の党支部が役職者を決める。党村支部の役職者の任期は3年である。

村民委員会委員の選出は、まず村民の中から村民の代表（約70～80名ぐらいだが、年によってその数は変わる）を選び、この選ばれた村民代表投票者の投票で村民委員会委員を選出する（前掲表2参照）。村民代表投票者の選出は、各組の全員での投票を行い、50%以上の支持を得た人が代表投票者になる。各組の代表投票者の人数は、村民委員会が前回の例、世帯数に応じて決める。2008年6月に実施された先回の選挙の場合は、前掲表2に示したように、村民代表投票者は、前からある第1～第8組は平均4名の計33名、元々漁業を生業として土地を持たなかった人たちが陸に上がって住むようになってできた新村の第1～第3組からの計12名、そして鎮や村の開発した集合住宅団地に住む居民委員会の計32名の合計77名であった。候補者は、村民委員会と村民代表投票者の代表者とが相談して決める。委員選出の投票は、役職名ごとに行われる。

村民委員会委員の選挙の実施は、村民代表として選ばれる5名の選挙委員の下で行われる。選挙委員は、居民代表（村民代表投票者）のなかから選ばれた〔選出方法未確認〕5名で構成される。前回2008年6月の選挙委員は、居民代表5名のうち、2名は前村長と前会計であった。選挙委員長は前村長が担当した。

村民委員会を構成する村長以下7名の委員は、

村長1、副村長2名、会計1、婦女主任1、民兵營長1、無役委員1で構成され、村長は1任期3年で2期まで再任可、副村長以下の委員は1任期3年で再任の制限はない。

鎮および昆山市人民代表議會

村のレベルには議會はないが、鎮から上には議會がある。議員の任期は1期5年で、2期10年まで在任できる。張浦社區（旧村）から、張浦鎮人民代表議會には村長の陳華、住民の吳銀と夏小偉の3人が、また昆山市人民代表議會には副村長兼 会計の江風1人が、それぞれ議員として出ている。現議員の任期は1997/12/1～2012/11/30（?）。

『張浦鎮誌』

昆山市張浦鎮誌編纂委員會編『張浦鎮誌』が1992年に発刊された。第1篇～第15篇構成で、全267頁。陳の成り立ちの頃から現在までのことが記述されており、貴重な資料だと判断されるが、所有者の孟引根さんは目の前に置きながらも、コピーや転記は一切認めてくれなかった。甥の党副書記から指示されていたためだと思われる。（なお、その後龔さんが、他の方から借りて全部コピーをしてくれている。）

農業請負制になった時の土地配分

1生産組の総面積を総人口で割り、1人当たりの面積を決めた。老人、赤子もすべて1人当たり人数に加えて計算した。第1回の農地配分は1982年10月に、第2回の農地配分は1998年7月に実施された。第6組の場合は、第1回の配分では1人当たりの面積が0.95畝、そして第2回の配分では1人当たりの面積が0.5畝であった。

張浦鎮内の開発

張浦村では1982年10月に生産請負制に移行した。1970年代半ばから1998年までに張浦村の農地は1,259ムーから870ムーに、約2/3に減少した。それは、蘇南（江蘇州の南部）地方で郷鎮企業の創設、発展に力が入れられ、工場設置のために農地の改廃が進められたからである。1975年

から1985年まで農地を工場用地のために改廃・造成することが行われた。1998年には残されていた870ムーの農地と自留置の103.1ムーの土地が、2003年までにすべて無くなった。1998年以降は国内資本の企業が衰退し、外資系の企業の進出が顕著になってきた。この間の農地の転用は、①外資系企業の工場用65%、②住宅用地（高層住宅）20%、③公共用地15%の割合であった。

張浦鎮内の郷鎮企業：蘇州市昆山鋼瓶会社

張浦鎮内の郷鎮企業についてみると、まず、1975年に蘇州市昆山鋼瓶会社が設立された。プロパンガスのボンベを製作した。会社の經理を孟引根さんが担当した（1977年8月23日～2000年3月5日）。工場用地の14ムー強の土地は第1組の土地を借用し、地代は当時の稲の反収の最高の収量を規準にして、3年ごとに借用契約をし、3年ごとに一括して面積分の地代を払っていた。1976年から生産を開始し、1977年には利益率45%、160万元の利益があり、この中から税金に40%をとられ、純益は約100万元であった。純益金から工場の設備や技術開発の費用に充て、残りは人民公社の農業投資に当てた。ビニールハウス栽培を始めたのもこの時からであった。当時ビニールは非常に高価であったが、工場の利益を当てることで可能になった。昆山鋼瓶会社の利益が最高になったのは1982年で、300万元であった。1978年から1985年までに振り分けられた利益投資先の累積比率は、企業投資45%、農業費30%、公共用費25%であった。利益は会社から直接鎮政府に渡し、鎮政府が新しい企業に投資をした。

工場従業員は各村に必要な人数を割り当てて雇用し、技術者は昆山市内や上海市内の企業を定年になった人に来てもらった。従業員数は最も多い時には424人であった。給与は他の会社よりも高い給与を払っていた。1976年から1982年までの間は、給与は、月々の額を計画した上で、年末にまとめて支払った。従業員は、一方で農業もしていたからで、月6元の補助金をもらえた。1982年以

前の月額給与は少なくとも30元以上あったし、最高は45元であった。

昆山鋼瓶会社の経営者幹部の構成と、事務部門の構成と職員数は次のようであった。経営幹部の構成と人数は、社長1（鎮が任命）、副社長2、党支部書記1、党支部副書記2であった。他方、事務は部門制をとっており、その構成と人数は、生産課（部）7、技術課（部）5、質量検査課（部）18、財務課（部）6、供応課（部）5、販売課（部）17、総務課（部）4となっていた。それに生産労働者がいた。赤字が続いたため、鎮政府は2000年3月に会社を閉鎖した。

農民対象の社会保障

郷鎮企業が閉鎖したため、土地収用した農民に就業させることができなくなった。そのため、政府は政策を変更し、2004年1月1日以前に生まれた者のみを対象に、農民従業員の失業者に補償金を支払うことにした。開発に伴う失地農民で、郷鎮企業から失業した農民が対象。農地の安置費（?）として、50歳以上の女性と60歳以上の男性に、それぞれ月額120元が、口座に振り込まれる。当人が死亡するまでに振り込まれた額が2万元に達しない場合は、口座に残った金は子どもに相続される。

通常の養老年金は、50歳以上の女性と60歳以上の男性が対象で、それぞれ月額100元である。

農村養老保険金は、50～69歳の女性と60～69歳の男性が、それぞれ月額250元で、70歳以上の女性と男性が、それぞれ月額280元である。

土地補償費

農地や屋敷地を収容する時に、安置費を1回だけ払う。個人の銀行口座に2万元払い込み、女性は45歳以上、男性は55歳以上になると、この金は自動的に養老年金に振り替えられる。しかし、この金はこれまで勝手に引き出すことが認められてこなかった。土地補償費は、49歳以下の女性と59歳以下の男性が対象で、1人当たりの支払額は土地の種別によって異なり、口糧地は0.5ムー

（畝）当たり年額600元、責任地は0.5ムー当たり年額200元、自留地は0.1ムー当たり年額80元である。口糧地の使用権面積は人によって異なり、面積の積算は1998年7月に実施された第2回配分時の一人最低の面積0.5畝で計算し、0.5畝に足りない面積の場合でも0.5畝で計算した。責任地は口糧地以外の土地のことで、これも人によって面積が違う。自留地は屋敷の野菜畑などである。

孟引根さんのインタビューを終了して、孟引根さん宅から400mぐらい離れたところにある張浦村内の新美街にあるコピー店で地図のコピーをした後、その店の近くのパス停からバスで浦江北路との交差点まで出て、そこでバスを乗り換え、浦江北路とそれに続く長江南路を北上してホテル近くのバス停で降車した。バスに乗車した時は座れたが、浦江北路と長江南路の両側は工場などの事業所が集中しているため、バスは工場からの帰宅者ですぐに満員になった。運賃は4元であった。ホテルに着いたのは18時であった。

4. 8月16日(日)の聴取調査

朝、張明明さんにバイト代の支払いと関係書類の作成をし、チェックアウトを済ませて荷物をフロントに預けた後、8時30分にタクシーで張浦村の王明林さん宅へ向かう。9時に王さん宅に到着し、昨日からお願いしていた老協会長の盛冬生（75歳）さん宅に早速案内していただく。同会長宅は、王さんと同じ第4組にあり、王さん宅前の通りを20mほど東に進み、そこから細い路地を北に10mほど入ったところにある周囲では綺麗な2階家の住宅に住んでいる。しかし、盛冬生さんは在宅していたにもかかわらず、期待に反して会っていただけなかった。王さんの話では、かつての日中戦争の頃の思い出から反日的な感情を

持っているからだ、とのことであった。戦前、昆山には一時日本人が住んでいたとのことである。すぐに王さん宅に戻ってきたが、日曜日のため近所の人たちが麻雀をしに集まっていた、店の邪魔になるので、すぐにお礼を述べて次の訪問先の孟引根さん宅を訪ねる。

孟引根さんの聴取調査③

(9:30～10:10)

孟引根さんは、1948年1月1日生まれ。父の家は、今住んでいる家の北西隣にあって、孟さんはそこで生まれた。父の家は、1978年9月に父によって新築された。今住んでいる家は、孟さんによって1985年12月に新築されたものである。

6年制の張浦小学校を14歳で卒業した。在学期間は1956年9月から1962年7月の6年間。当時の張浦小学校は、現在の新昆小学校の所であった。

1962年7月に、牛耕のために初めて牛を1頭入れて飼育をした。牛は、人民公社内の組のもので、同年の年末まで飼育した。特に母が病弱だったため、その後も農業に従事した。父は、人民公社の幹部で、人民公社の社長や共産党支部書記長を歴任した。また、父は1949年12月に張浦鎮最初の共産黨員になった人である。

孟引根さんは、その後も農業に従事し、1975年鎮政府によって設立された蘇州市昆山鋼瓶会社が経理担当者を募集した際に応募し、1977年8月23日に財務担当事務員として採用された。その後2000年3月に会社が閉鎖されるまで同会社の経理担当職員として勤務した。そして同年4月より、経理の職務経験を買われて張浦村社區の臨時職員として経理の仕事に従事して現在に至っている。この間、2000年3月に定年になったが、現在も経理の仕事を頼まれている。

孟引根さんの自宅は、16m×12.1mの敷地に立っている2階建ての家で、2階に30m²の部屋5部屋と15m²の部屋1部屋の合計5部屋あり、

1階もそれと同じ大きさと数の部屋がある。このうち1階のすべてと2階の1部屋の計6部屋を労働者に貸している。各部屋の間借り居住者はすべて夫婦二人で、出身州別に見ると江蘇省1、江西省1、湖北省2、安徽省2となっている。部屋代は、5部屋が月額200元、1部屋が月額180元、月の総額1,180元となっている。

12時にホテルに戻り、龔さん夫妻、張明明さんとお礼の昼食会を開き、調査協力への謝意を表す。そのあと、龔さん夫妻に昆山バスセンターに送っていただき、張さんはそこから上海市西浦区の自宅へ、そして黒柳は上海のバスセンターへ向かう。高速バス利用は、電車の特急券を購入するよりバスセンターで簡単にチケットが買え、しかも必ず座れて、昆山までの往復手段として便利である。

付記

本ノートは、平成21年度科学研究費補助金(基盤研究B)「大規模開発に伴う中国の都市近郊地帯における地域再編」(代表 季増民 教授)による研究成果の一部である。

くろやなぎ・はるお / 文化情報学部教授
E-mail: hkuro@sugiyama-u.ac.jp